

CONTENTS

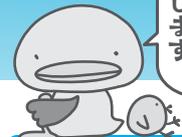
1. 2024年海洋廃棄物国際会議報告(中華民国台北市) __ 1
2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業 __ 3
 - ①令和5年度海浜等清掃活動実施状況調査報告 __ 3
 - ②令和5年度漁民の森づくり活動等調査 __ 5
3. 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動) 報告 __ 8

<http://www.umitonagisa.or.jp>

公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構

発行者 公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24 湯島ペアービル7F
TEL 03-5800-0130 FAX 03-5800-0131
E-mail info@umitonagisa.or.jp

X (Twitter)
Instagram
Facebook
お願
い
し
ま
す



X @umitonagisa
Instagram @umi-to-nagisa

1. 2024年海洋廃棄物国際会議報告 (中華民国台北市)

発表日時：令和6年9月25日 午前10時から20分程度

場 所：国立台北科技大学 主 催：海洋委員会海洋保育署

台北市で開催された2024海洋廃棄物国際検討会で講演してきました。9/24羽田空港第3ターミナル(初使用)まではとても涼しくて久しぶりに汗をかかないで歩けるくらいでしたが、台湾は前日が雨のためかとても蒸し暑く、南国!!って感じでした。

どんな航路を通ると思いますか?飛行機は富士山を右手に見ながら、四国沖を通過して、宮崎県と鹿児島県上空を通過して、沖縄県の北側を通りました。それが一番近いのでしょうか?台湾って南にあると思っていたので、沖縄の北側を通るんだと驚きです。

なんで呼ばれたかって?本命とは都合が合わなかったようで、6年ほど前に発泡フロートの減容機の紹介を台南市で行った当機構に声をかけてくれたということらしいです。日本が漁網リサイクルに頑張っ

ていることを伝えられるので喜んで参加しました。

検討会会場についたら昼弁当が出てきて、開けてみると水餃子と大きな餃子のおにぎりみたいなもの。きっとこちらでは「おにぎりセット」みたいなものなのでしょう。餃子と餃子でお腹いっぱいです。

今回が初開催、主催は海洋委員会という台湾の行政組織の部署です。委員会の中に「署」という担当班があるようで、日本と違うと思いました。検討会は3日間開催、6か国(台湾、日本、米国、韓国、インドネシア、ベトナム)から延べ200人程度が参加。講演内容は海洋環境の研究者が多かったですが、海浜清掃のNPOや廃漁具を使ったりリサイクル商品を作っている業者さんもいました。廃漁網を回収してリサイクルできるように取り組んでいる講演内容は他に見当たらな



検討会会場の様子



発表後の討論会の様子



会場になった大学の正門

かったので、講演内容が被らなくてほっとしました。聴講者には台湾政府の役人や大学院生もいました。日本からの出席者には知っている人もいて、世間は狭いと実感です。

講演は9/25、10時～20分程度です。「漂着漁具の多くは外国製で日本の漁業者は漁具を流出させていない」、「日本ではRe:ism(リズム)というチームを作って漁網のリサイクルに取り組んでいること」、「漁網は漁法によってリサイクルしやすい漁網か分類できること」、「発泡スチロールの圧縮減容」について話しました。

午後は台湾農林部海洋漁業署(5名)と会議の主催者である海洋委員会海洋保育署(2名)で打ち合わせがありました(通訳帯同)。もしかしたら観光では入れない台湾総統府(日本統治時代の台湾総督府)の建物に入れるかもと思いきや全然違う建物でした(「_」)☹️。海洋漁業署では午前の講演内容を再度発表した後に質疑応答を行いました。矢継ぎ早に質問が来たのでメモが取れないくらいでした。台湾の漁業規模は登録漁業者3万人、3万隻。「台湾も漁業系廃棄物には困っていて、去年のR5シーフードショー(東京ビックサイト)には漁業者とともに見学し、

Re:ismのブースにも立ち寄った。今回Re:ismの内容を聞いて良かった。」と言ってくれました。台湾には大量に漁具が輸入されていて、日本のように国内生産量≒使用量≒廃棄量ということが言えないそうです。浮子の漂着問題対策としてシリアルナンバーを付け所有者を特定できることを計画し、同時に5年前から硬質ポリエチレンへの変更を進めているが重くて高価なので、評判は良くない、値段については発泡スチロールが値上がりしているのが問題点としては重量だけのようでした。こちらからは「筏で作業する上で硬質だと指を挟んで骨折する心配があるがその対策は?」と聞いたら、特に取っていないというので、フロートの素材は何でも良いが安全第1で発泡体が良いと思うと伝えました。大型まき網については漁網メーカーが回収してリサイクルに取り組んでいて、遠洋はナイロン、近海は複数素材ということでした。

海洋保育署は主催者でもあったことから、午前の講演を聞いていたようです。台湾離島の馬祖・金門・澎湖でも刺網などは漁網の処理は問題となっていて、港内に廃漁網置き場を設置し、リサイクル業者が取りに来て、刺網、曳網など200t/年処理するという。多くは焼却で熱エネルギー利用はない。熱エネルギーという考えは台湾には根付いていないという。2005年に大分県津久見のRDF発電所を見学し、台湾でも実行しようとしたようですが、実現できなかったようです。漁業界ではまだリサイクルという意識は足りないので、日本の方法を参考にしたいということでした。

海洋漁業署・保育署の皆様は日本から来たことに謝意を表してくれましたが、自分では無くて水産庁の人と話せたらもっと喜んでくれたのかなと思いました。

台湾側の関係者の1人が「自分の祖母は日本統治時代に学校で日本語の先生をしていて、1970年の大阪万博の思い出話を語ってくれた。来年は自分が見学して祖母に語るつもりだ」と言っていました。

今年はこの他、国内でも課外授業がありました。これについては次号でお知らせします。

(福田)



台北松山空港行きの飛行機から見た富士山(9/24雪はまだ見えない)

お弁当：お箸の長さから大きさを想像してください。食べ応えあり。



海洋漁業署の会議室準備中

2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業

① 令和5年度海浜等清掃活動状況調査報告 抜粋

平成9年度より行っている海浜等清掃活動実施状況調査の令和5年の報告書ができました。報告書の全文はホームページに掲載しています。<https://www.umitonagisa.or.jp/jigyou/#bika>
【調査結果の概要】

「海浜等清掃活動実施状況調査」は、全国47都道府県に調査票を配布し、その回答を集計しています。(37都道府県から回答を頂きました。)

1 活動回数

月別の活動回数と割合を図1及び図2に示します。

令和5年には、全国で17,193回(令和3年は11,588回、令和4年は16,935回)の清掃活動が行われました。特に6月、7月、8月は活動回数が多く、全体の4割(38%)を占めました。また、5月から10月までの半年間で全活動の7割(66%)が行われました。

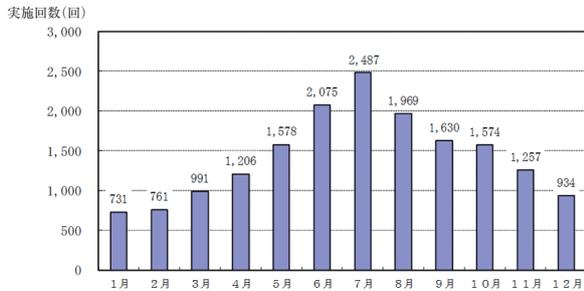


図1 月別活動回数

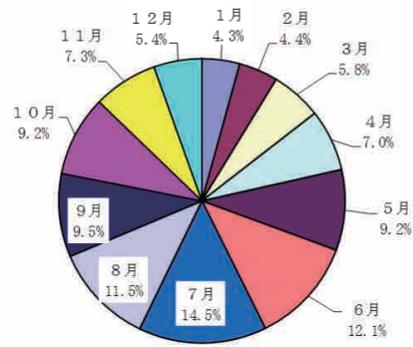


図2 月別活動回数(割合)

2 清掃活動を実施した場所別の清掃距離(面積を含む)と参加人数

清掃活動を実施した場所別の清掃距離(面積を含む)と参加人数を表1に、清掃活動を実施した場所別の参加人数の割合を図3に、参加者1人あたりの清掃距離を図4に示します。

清掃活動の参加人数は、61万人(令和3年は43万人、令和4年は61万人)でした。参加人数を活動場所別にみると、海岸(53万人)と河川(6万人)での活動が多く、この2つをあわせると全参加人数の殆ど(97%)を占めました。

清掃距離は、海岸が14,533km、河川が1,754km、湖岸が154kmでした。また、海域(海上)の清掃面積は371km²、湖域(湖上)の清掃面積は37km²でした。

清掃距離を参加人数で除した1人あたりの清掃距離は、海岸で28m、河川で27m、湖岸で19mでした。

表1 清掃活動実施場所別の清掃距離(面積を含む)と参加人数

	全体	海岸	海域	河川	湖岸	湖域
参加人数(人)	608,473	528,322	5,711	64,054	8,165	2,221
清掃距離	距離(km)	16,441	14,533	—	1,754	154
	面積(km ²)	408	—	371	—	—

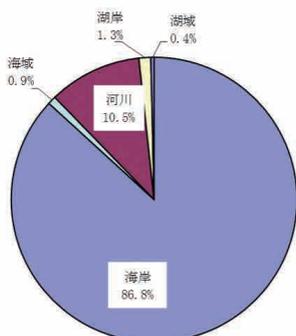
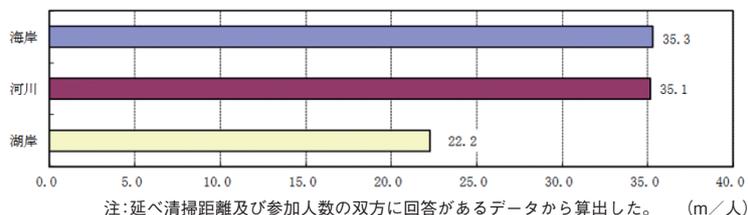


図3 清掃活動実施場所別の参加人数(割合)



注:延べ清掃距離及び参加人数の双方に回答があるデータから算出した。(m/人)

図4 清掃活動参加者1人あたりの清掃距離

3 清掃活動参加者の構成

清掃活動参加者の構成を図5に示します。

清掃活動参加者の内訳は、成人男子が60.8%、成人女子が21.9%、大学生が1.4%、中・高校生が8.5%、小学生以下が7.5%でした。

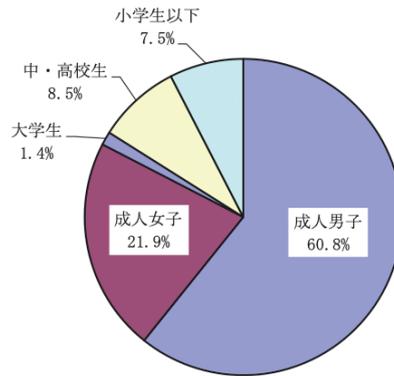


図5 清掃活動参加者の構成割合

4 主催団体別の清掃活動参加者数

主催団体別の清掃活動参加者数(割合)を図6に示します。これを見ると、1位は「行政」で全体の6割(59%)、2位は「地域関係」で全体の1割(13%)を占めており、この2つの団体が開催(主催)した清掃活動だけで、清掃活動参加者全体の7割(72%)を占めていました。

次に団体別の清掃活動の主催回数(割合)を図7に示します。これを見ると、1位は「地域関係」で全体の3割(34%)、2,3位は「行政」と「水産関係」で合わせて全体の3割(31%)を占めており、この3つの団体が清掃活動の7割(65%)を開催(主催)していました。

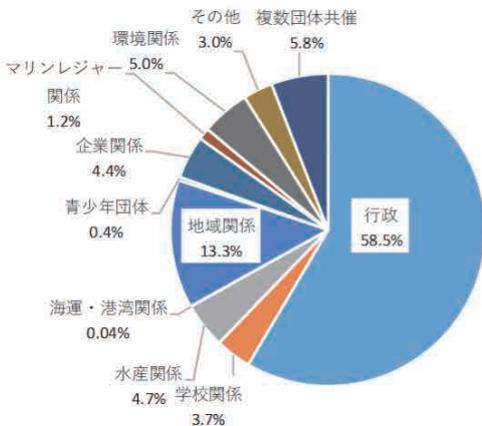


図6 主催団体別の清掃活動参加者数(割合)

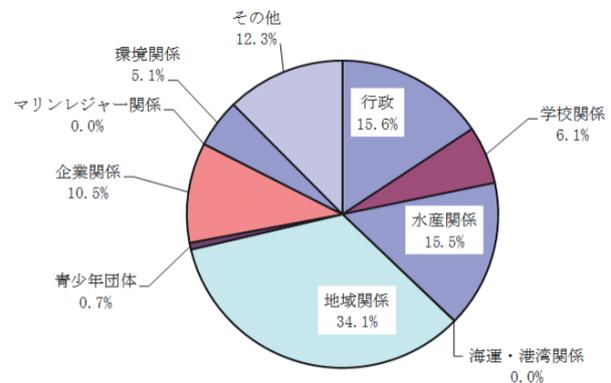


図7 団体別の清掃活動主催回数(割合)

5 ごみの回収状況

清掃場所別のごみ回収量とその割合を図8に、参加者1人あたり及び汀線1kmあたりのごみ回収量をそれぞれ図9及び図10に示しました。

ごみの回収量は、全体で4万 m^3 (8,000トン)でした。なお、この回収量はごみの種類を把握しているものと、総量のみ把握しているものの合計値です。

清掃場所別では海岸が2万9千 m^3 と最も多く、次いで河岸が9.5千 m^3 となっており、この2つを合わせると全体の97%を占めました。

参加者1人あたりのごみ回収量は、海域が最も多く0.286 m^3 、次いで海岸が0.10 m^3 、湖域が0.05 m^3 、湖岸が0.05 m^3 となっており、最も少なかったのは河川で0.03 m^3 でした。

汀線1kmあたりのごみ回収量は、海岸が最も多く2.67 m^3/km でした。

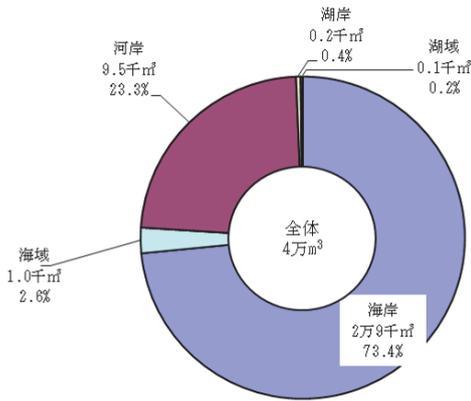


図8 ごみ回収量とその割合

注:各値は四捨五入してあるため、合計はその内訳の合算値と一致しない場合がある。

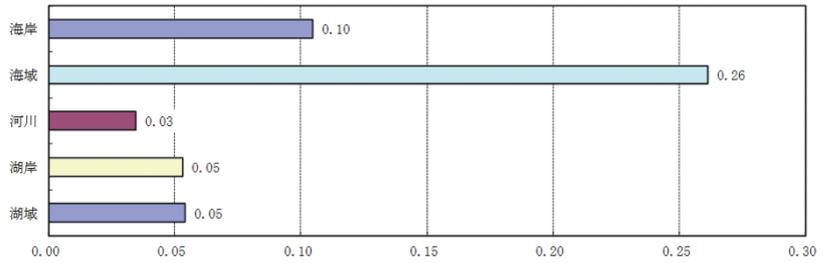


図9 参加者1人あたりのごみ回収量

注:場所別の参加人数及びごみ回収量の双方に回答があるデータから算出した。(m³/人)

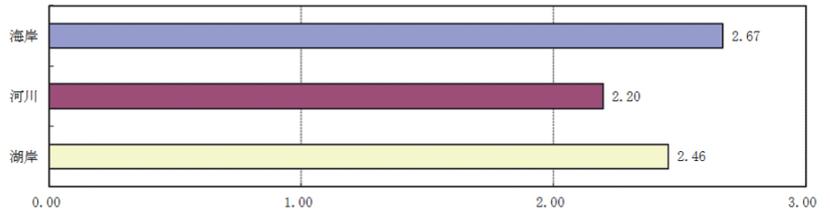


図10 汀線1kmあたりのごみ回収量

注:延べ清掃距離及びごみ回収量の双方に回答があるデータから算出した。(m³/km)

令和5年度海浜等の美化活動事例調査報告書(抜粋)

(報告書の全文はホームページに掲載しています)

清掃活動に参加した団体は、多い順に地域関係(35%)、企業関係(19%)、水産関係(15%)、行政(12%)、学校関係(8%)の順でした。本報告書にはこの他、都道府県別の参加団体一覧や清掃活動中の写真を掲載しています。

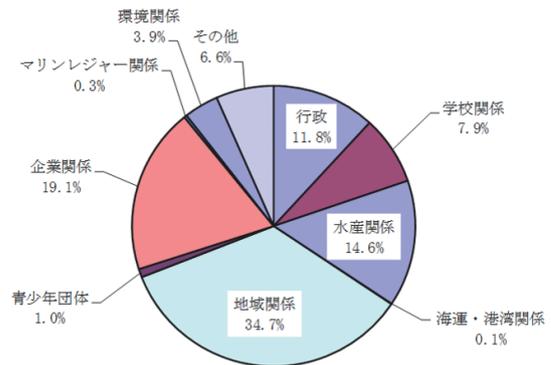


図11 清掃活動に参加した団体(割合)

② 令和5年度漁民の森づくり活動等調査 抜粋

平成13年度より行っている漁民の森づくり活動等調査の令和5年度報告書ができました。

報告書の全文はホームページに掲載しています。

<https://www.umitonagisa.or.jp/jigyou/#bika>

【調査結果の概要】

令和5年度は80ヶ所(中止3ヶ所含む)の活動報告がありました。令和5年度の活動数は、前年度(令和4年度は64ヶ所)と比較して、16ヶ所増えました。また、活動の休止は7ヶ所から3ヶ所に減少しており、新型コロナによる自粛の影響が薄れてきていることが伺えます。植樹活動では47種類(針葉樹13種)の樹種が植樹されました。令和5年度の森づくり活動への参加人数は延べ6,500人、植樹本数は28,000本と、昨年度(令和4年度)の4,300人、14,000本と比べて、参加人数は50%増え、植樹本数は2倍に増えました。表1を見ると、「植樹」が最も多く全国65ヶ所で行なわれ、続いて「地ごしらえ」45ヶ所、「下刈り」29ヶ所、「枝打ち」12ヶ所、「間伐」8ヶ所、「つる切り」6ヶ所、「その他」6ヶ所の順でありました。「その他」の作業内容としては、丸太輪切り体験、チップ敷き、防護柵修繕、ヒトデガード設置、倒木の撤去、ヨシ帯刈り、ごみ拾いが報告されています。

なお、漁民の森づくり活動が行われた場所については、報告書巻末の地図及び表を御覧ください。

表1 作業種別活動数(複数回答)

	植樹	下刈り	地ごしらえ	つる切り	枝打ち	間伐	その他
北海道	33	20	13	0	3	2	0
東北・関東	8	3	7	4	0	0	2
北陸・中部・近畿	6	2	9	1	5	4	2
中国・四国	7	2	6	0	0	0	2
九州	11	2	10	1	4	2	0
合計	65	29	45	6	12	8	6

1 漁民の森づくり活動で植樹された樹種

漁民の森づくり活動で植樹された樹木53種のうち上位10種は図1のとおりです。

ミズナラが12カ所(北海道で10カ所)で最も多く、次いでヤマザクラが9ヶ所(九州地区5ヶ所)でした。

地域別に植樹されている樹種を図2に示します。

北海道ではミズナラ10ヶ所、アカエゾマツ5ヶ所、エゾヤマザクラとヤチダモが各4ヶ所、サクラ他8種が各2ヶ所、その他12種が各1ヶ所報告されています。

東北・関東ではコナラ、ブナの2種が各3ヶ所、アキグミ、カシワ、ケヤキ、トチノキ他7種が各1ヶ所、北陸・中部・近畿ではケヤキ2ヶ所、イロハモミジ、ウバメカシ、コナラ、トチノキ他2種が各1ヶ所報告され、中国・四国ではヤマザクラ2ヶ所、トチノキ、ブナ、ミズナラ、モミジ他7種が各1ヶ所、九州ではクヌギ、ヤマザクラ各5ヶ所、イロハモミジ、コナラ各3ヶ所、ケヤキが2ヶ所、その他6種が各1ヶ所報告されました。植樹された樹種は地域別に、北海道25種、東北・関東13種、北陸・中部・近畿7種、中国・四国12種、九州11種でした。



図1 植樹された上位10種(箇所数 全国)

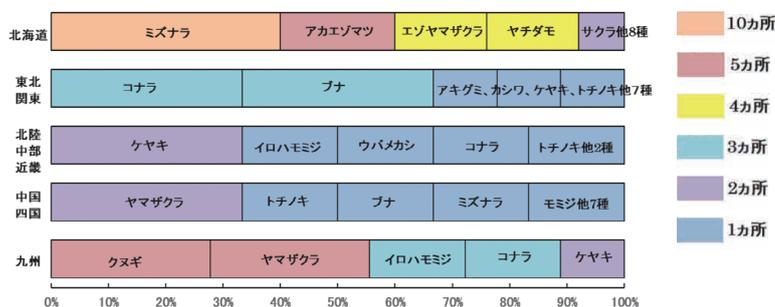


図2 植樹された上位5種(地域別)

2 漁民の森づくり活動に参加した漁業者が営む漁業種類(複数回答)

図3に漁民の森づくり活動に参加した漁業者が営む漁業種類について示しています。

漁業者が営む漁業種類では、「定置・建網」が最も多く16%、次いで「刺網・流し網」14%、「採貝」12%、「採藻」9%、「藻類養殖」8%、「貝類養殖」6%、「筒・籠・壺」7%と、いずれも沿岸で営まれる漁業種類がありました。「その他」4%の内訳は「内水面漁業」、「海女」、「ホタテ桁網」、「サケ増殖事業」、「エビ」などの回答がありました。漁業種類数で見ると、1種類の漁業種類で取り組んだ活動が19%、次に2種で18%、3種と4種は各15%でした。5種以上営む漁業者も全体の32%あり、最多は9種類3%でした。

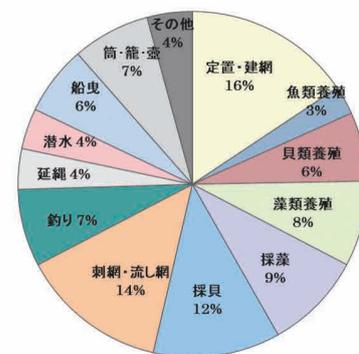


図3 漁民の森づくり活動に参加した漁業者が営む漁業種類(複数回答)

3 令和6年度以降の漁民の森づくりについて

図4に次年度(令和6年度)以降の漁民の森づくり活動で行う作業内容(予定)についてです。「植樹と併せて、間伐・下刈り等管理にも力を入れていく」が34%、「既存の場所で植樹を積極的に行う」が32%で、この2つで回答の2/3を占めました。それ以外では、「新たな植樹地を求めるなど、植樹地を拡大する」と「植樹はほぼ済んだので、下刈り等の管理に力を入れていく」が各14%で、合わせて回答の3割を占めました。昨年度は「中止」の回答が3%ありましたが、今年度はありませんでした。「その他」6%の内訳は、「下草刈りのみ定期継続する予定」、「ヨシ帯刈り取り、競合植物の管理」、「新たな除伐作業地を探し、活動域を海沿いに拡げる」といった回答がありました。

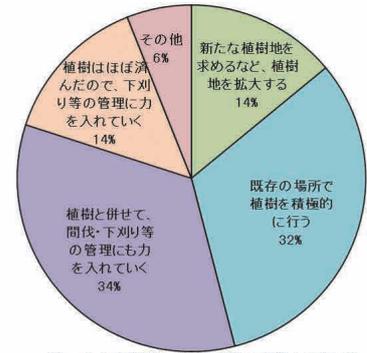


図4 次年度(令和6年度)以降の作業内容(予定)
(複数回答)

4 漁民の森づくり活動地区(土地)の選定理由

表2のとおり、活動地区(土地)の選定理由としては、「ア. 活動しやすい場所(林道・駐車場から近い、傾斜が緩い、苗木を運び易い等)」と「イ. 漁獲又は水産資源の増大に効果があるとされる場所」が各3割を占め、漁民の森づくり活動の主要な目的である「イ」と参加者が安全に活動できる「ア」はほぼ同数でありました。また、回答者の1割が「ア」と「イ」の両方を選択しました。

「その他」の内訳は、「100～200人の除伐作業が可能で、周辺に川もあり「森・川・海」の関係が分かりやすいこと等、総合的に判断した」、「町有林でスギ・ヒノキの人工林から紅葉樹林への樹種転換に取り組んでいるため」、「他に植樹できる場所がなかった。」というものでした。

表2 漁民の森づくり活動地区(土地)の選定理由(複数回答)

ア. 活動しやすい場所(林道・駐車場から近い、傾斜が緩い、苗木を運び易い等)	29%
イ. 漁獲又は水産資源の増大に効果があるとされる場所	31%
ウ. 自然災害、野生鳥獣、害虫等による樹木の被害が少ない場所	2%
エ. 土地が提供されたから、又は空いている土地があった	16%
オ. 植樹地の選定に関わらなかったのわからない	10%
カ. その他	12%

5 主催者と費用負担について

漁民の森づくり活動の主催者を「漁業関係者」、「その他」、「漁業関係者とその他の共同」に分けて集計したところ、結果は図5のとおりで、「漁業関係者とその他の共同」が44%、「漁業関係者」が39%、「その他」が17%で、漁民の森づくり活動の8割以上が漁業関係者の主催又は共催によるものでありました。

活動費負担件数(組織別)では、「主催者」が8割の活動に、「都道府県」が半数5割の活動に、「漁連・漁協」、「民間」、「寄付金」は各4割の活動に費用を負担していました。

図6の活動費負担割合(組織別)では、「都道府県」が31%と最も多く、これに「国」7%と「市町村」13%を合わせると、活動費全体の半分を「行政」が負担していました。

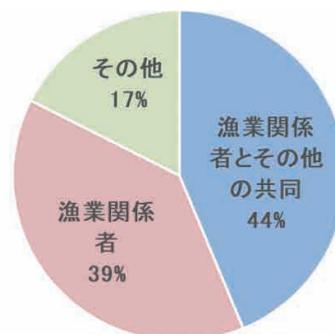


図5 活動の主催者

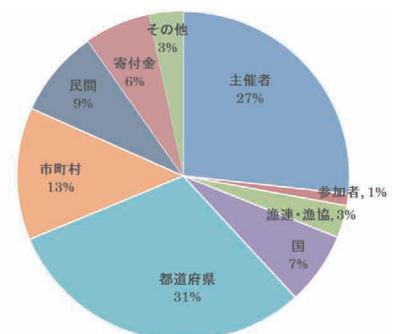


図6 活動費負担割合(組織別)

3. 令和6年度 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動)報告

未来に残したい、美しい浜辺・青い海

*全国から集まった海浜清掃活動報告をご紹介します。(ホームページに掲載したものの一部です)

- *ホームページ <https://www.umitonagisa.or.jp/houkoku/>
- *X(旧Twitter) <https://twitter.com/umitonagisa>
- *Instagram https://www.instagram.com/umi_to_nagisa/

皆さまからの海の羽根募金による寄付や会費に加え、日本財団からの助成金で「海と渚の環境美化運動」の全国的な展開を推進するための清掃資材(ゴミ袋)を、漁協、地方自治体、NPO等に配布いたしています。5年間の配布実績は下表のとおりです。活動グループからの報告が逐次当機構に寄せられています。活動報告はホームページ、ツイッターに掲載しています。また、ハッシュタグを付けて地元の方、海外の方にも容易に見つけていただけるようにしました。ぜひホームページ、ツイッターでご覧下さい。

【清掃資材(ゴミ袋)配布実績】

(単位:万枚)

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	大	小	大	小	大	小	大	小	大	小
自然物ゴミ袋	23.6	0.7	18.5(11)	1.9	21.6(10)	2.6	21.1(10)	0.8	20(10)	0.8
人工物ゴミ袋	15.8	1.9	15.5(11)	0.5	16.2	2.3	15.6(10)	0.9	15.4(10)	0.8
計	39.4	2.6	34.0(22)	2.4	37.8(10)	4.9	36.7(20)	1.7	35.4(20)	1.6

注:()内の数字はJFマリンバンク、全国共済水産業協同組合連合会からの提供枚数です。

平成30年度以降は小20L相当のゴミ袋も作成し、4種類のゴミ袋を配布しました。大はこれまでと同じ大きさのゴミ袋

■北海道 北海道漁連 一ひやま漁協 熊石支所

令和6年7月11日

活動場所 八雲町
冷水川一見市川間の
海岸線

参加者 32名
ゴミの量 人工物ゴミ 150袋
コメント 中国語、韓国語、ロシア語
標記のゴミが多くみられた。ゴミの量
が多くて大変だった。



北海道漁連一えりも漁協

令和6年6月21日

活動場所 えりも漁協岬事業所周辺

参加者 100名

ゴミの量 人工物ゴミ 300袋

コメント 護岸の深いところにまで
ペットボトルなどプラスチックゴミが入り
込んで回収が難しかった。たくさん
の人が集まって大きなイベントにす
ることができた。



コープさっぽろ

令和6年5月15日

活動場所 泊村 堀株海岸

参加者 72名

ゴミの量 人工物ゴミ 120袋

コメント 小学生たちの元気がとて
もよかったです。



盃地域会

令和6年6月23日

活動場所 泊村 盃海岸

参加者 68名

ごみの量 自然物ごみ 127袋
人工物ごみ 160袋
コメント 早朝からの活動でしたが、皆さんとても頑張って活動していました。



北海道漁連一鹿部漁協

令和6年6月8日
活動場所 本別漁協周辺
参加者 52名
ごみの量 人工物ごみ 100袋
コメント ペットボトルが大量に漂着しており、回収が大変だった。漁籠、ポリパンなど漁業関係のごみも多くみられた。



青森県

青森県営浅虫水族館

令和6年7月21日
活動場所 浅虫地区の磯
(幅約100m)
参加者 45名
ごみの量 人工物ごみ 19袋
コメント たくさんゴミがあつてびっくりした。



神奈川県

みうら漁業協同組合

令和6年6月9日
活動場所 二町谷地区
(白石港・海外港)

参加者 63名
ごみの量 自然物ごみ 250袋
人工物ごみ 20袋
コメント 除草作業が大変だった。



小坪漁業協同組合

令和6年5月8日
活動場所 小坪漁港周辺
参加者 48名
ごみの量 自然物ごみ 35袋
人工物ごみ 16袋
その他 6袋
(流木・ガスボンベ等)

コメント 組合員及びその家族が一堂に会し、漁港周辺のごみ拾い、草刈り等を行った。漁師の皆さんたちでコミュニティを形成するいい機会となった。



新潟県 糸魚川市

令和6年7月7日
活動場所 糸魚川市青海地域の
海岸・砂浜
参加者 約1,400名
ごみの量 自然物ごみ 約1,000袋
人工物ごみ 約1,000袋
コメント 改めて海にはたくさんの種類のゴミがあると感じた。海外からの漂着ゴミも気になった。きれいな海岸は、自分でゴミを持ち帰る意識の醸成につながる。これからの時期は海を目的に当市へ多くの方が来訪する。気持ち良く来て、帰ってもらうため、毎年参加したい。



新潟県漁業協同組合連合会

令和6年6月21日
活動場所 新潟市 太夫浜海岸
参加者 新潟市太夫浜小学校
3年生・5年生・教員110名、新潟県漁業協同組合南浜支所太夫浜漁業振興会8名、太夫浜婦人部5名
ごみの量 自然物ごみ 150袋
人工物ごみ 80袋
その他 流木など

コメント 前日に熱中症アラートが発令されたので時間を短縮して実施しました。当日は曇天でしたが動きやすく、多くの漂着物やゴミを収集できました。



福井県 小浜市漁業協同組合

令和6年6月2日
令和6年6月3日
令和6年6月30日
活動場所 ①小浜、加斗、泊、堅海、
仏谷、甲ヶ崎、宇久、加尾、
阿納、犬熊、田鳥
②西小川
③志積、矢代

参加者 301名
ごみの量 フレコンバック90袋
コメント 小浜市の海岸では冬場にゴミが大量に漂着するため、1年を通じて清掃活動行っています。処分する際、分別を行っています。分別をするためのフレコンバック等の支援をお願いしたい。



北潟漁業協同組合

令和6年6月2日

令和6年7月14日

令和6年8月3日

活動場所 ①北潟海岸 ②城新田
③波松

参加者 ①北潟=漁協組合員、
地区民、ボランティア
=計81人
②城新田=漁協組合員、
地区民、ボランティア
=計30人
③波松=漁協組合員、
地区民、ボランティア
=計130人

ごみの量 自然物ごみ 370kg
人工物ごみ 210kg
その他 漁具やウキなど
3,710kg

コメント 「能登地震の津波の影響からか、漂流物が多かった」「今回、軽トラックまでのゴミの運搬が厳しく、舟を使い海上輸送した」「ペットボトルの数が半端でなかった」



美浜町漁業協同組合

令和6年6月9日

令和6年6月9日

令和6年6月11日

令和6年6月12日

活動場所 福井県三方郡美浜町
①日向地区 ②和田地区
③菅浜地区 ④早瀬地区

参加者 延べ210名(日向漁業組合・日向区170名、美浜漁家組合・和田支部15名、菅浜漁家組合16名、早瀬実行組合9名)

ごみの量 自然物ごみ 67袋
人工物ごみ 115袋
その他 12袋(大型袋)
11袋(トン袋)

コメント 漂着ごみは色々なものがあり分別が困難。漂着ごみで大型の流木等の処分に困る。



若狭三方漁業協同組合

令和6年6月2日

活動場所 常神半島海岸線

参加者 114名

ごみの量 自然物ごみ 800袋
人工物ごみ 400袋
その他 流木、藻類、
ロープ等

コメント 去年と比べ海藻類のごみが多いように感じた。細かいプラスチックごみが多く、拾うのが大変だった。



静岡県

Nature Clean 環境協会

令和6年4月28日

実施場所 馬込川・芳川河口一带

参加者 19名

ごみの量 自然物ごみ 44袋
人工物ごみ 12袋

コメント 今回この場所に関してはきれいになりましたが ちょっと離れた場所はまたゴミがいっぱい!!



Nature Clean 環境協会

令和6年7月27日

活動場所 馬込川江南中学校
西側河川岸

参加者 14名

ごみの量 自然物ごみ 24袋
人工物ごみ 2袋

コメント きれいになりました!!



戸田漁業協同組合

令和6年7月4日

活動場所 御浜海水浴場一带

参加者 125名

ごみの量 自然物ごみ 25袋
人工物ごみ 20袋
その他 流木等
軽トラック3台程度

コメント 人工物ごみとしては今年もPETボトルや発砲スチロールが多かった。空き缶、弁当ごみが少しありました。流木等は豪雨後の行政の対応で大きいものは少なかった。今年も参加者が多く、砂浜はとてきれいになった。



島根県

漁業協同組合 JFしまね

令和6年7月7日～7月21日(25回)

活動場所 JFしまね 各支所・出張所
周辺地先海岸

参加者 約1,500名

ごみの量 自然物ごみ 約2,000袋
人工物ごみ 約1,900袋

コメント 今年は、海の日前後の大雨のために一部地区にて、延期や中止もあったが、島根県内9支所25カ所にて海浜清掃を行った。回収されたゴミの中には、大雨で流れ着いた木くず等が目立ったものの、ロープやスチロール、ブイ等の漂着物、空き缶やペットボトルも多く回収された。今後もこの活動を通じて、持続可能な海を自分たちで守っていくという意識の啓発を図っていく。



徳島県

大津漁業協同組合

令和6年6月16日

実施場所 大津漁業協同組合の対岸(大津橋北岸～大谷川排水機場まで)

参加者 24名

ごみの量 自然物ごみ 40袋

人工物ごみ 40袋

その他 自転車、洗濯機

コメント 毎年清掃活動してるけど、ゴミの量は減少しません。特にペットボトルが増えた気がします。



阿南中央漁業協同組合

令和6年7月7日

活動場所 今津漁港・中島港・大湊漁港周辺

参加者 70名

ごみの量 自然物ごみ 100袋

人工物ごみ 40袋

コメント 貴機構よりいただいたゴミ袋は頑丈で持ち手もあり、大変使いやすいと好評でした。釣り客や一般客のゴミなどが多く見られ、マナー改善を広報する必要があると思いました。



愛媛県

南宇和ライオンズクラブ

令和6年6月8日

活動場所 愛南町 成碇海岸

参加者 85名

ごみの量 自然物ごみ 340袋

人工物ごみ 340袋

コメント 海岸のごみを除去することで、目的である愛南町の美しい自然と希少種生物を守っていく活動ができ、大変有意義な時間であった。



愛南町B&G御荘海洋クラブ

令和6年7月14日

活動場所 御荘湾 長洲川

参加者 20名

ごみの量 自然物ごみ 10袋

人工物ごみ 15袋

コメント 小雨の中での活動となりましたが、熱中症に注意しながらゴミの収集を行いました。参加者は、ふだん活動する場所を綺麗にすることによって、環境保全に対する興味も湧いているようでした。



愛媛県漁業協同組合 宇和島支所

令和6年7月14日

活動場所 宇和島市

赤松海岸、小浜海岸、

九島海岸

参加者 愛媛県漁業協同組合宇和島支所15名、宇和島漁協青年漁業者協議会18名

ごみの量 自然物ごみ 約20袋(670kg)

人工物ごみ 約18袋(620kg)

その他 パール約50本(140kg)

コメント 例年海の日には、宇和島湾内の漁業者全体で海掃除を行うことになっており、今年度も同様に多くの漁業者が海掃除を行った。写真に写っている参加者以外にも、船で海ゴミを持ってきている方も多数おられた。なお、ゴミ袋について、宇和島市からもゴミ袋を貰っており、頼んだものよりも市のゴミ袋の方が大きかったため、そちらを優先して使用した。また、例年地元の水産高校生にも参加してもらっているが、当日の朝、大雨が降ったため高校生の参加は見送りとなった。



高知県

橋浦漁業協同組合

令和6年7月14日

活動場所 大月町

海岸名:高望・城ヶ鼻・

大浦小浜・椎ノ浦・崎谷

参加者 70名

ごみの量 自然物ごみ 3トン

人工物ごみ 18袋

その他 漂流バイク3トン

車4台分

コメント 前年に比べて自然ごみは多かったが、人工物ごみはやや少なかった。



福岡県

福岡県漁連

—福岡市漁協 志賀島支所

令和6年6月8日

活動場所 志賀島漁港 内港・外港

参加者 組合員38名、

ボランティア35名

ごみの量 自然物ごみ

120ℓ入り800袋

人工物ごみ

120ℓ入り25袋

その他 コンテナ1台、

フロート、浮玉

コメント ボランティアのおかげで広範囲すべての作業が出来た。



福岡県漁連 一糸島漁協 姫島支所

令和6年7月9日

活動場所 姫島港、海岸

参加者 46名

ごみの量 自然物ごみ 1袋
人工物ごみ 20袋
その他 1トン袋 14袋

コメント 海岸線や港に流れ着いたフロート、ブイ、流木、ペットボトル等を島民みんなで一斉清掃し回収処分することができました。きれいな海と島になりました。



福岡県漁連 一遠賀漁協 柏原支所

令和6年8月23日

活動場所 柏原漁港・海岸

参加者 10名

ごみの量 自然物ごみ 30袋
人工物ごみ 30袋
その他 ごみ袋に入りにくい流木等

コメント 海の日に清掃できなかったので、8月23日（金）に行いました。



福岡県漁連 一宗像漁協 神湊支所

令和6年7月19日

活動場所 神湊港

参加者 36名

ごみの量 自然物ごみ 100袋
人工物ごみ 70袋

コメント 釣り客等が捨てた弁当やペットボトル、餌、釣り具等がかなりあった。



福岡県漁連 一北九州市漁協 旧門司支所

令和6年7月15日

活動場所 伊崎漁港内

参加者 12名

ごみの量 自然物ごみ 30袋
人工物ごみ 10袋

コメント 雨が降っていたためゴミが重くなったが、コンテナ満タン程ゴミが集まった。



熊本県 熊本県漁業協同組合連合会

令和6年8月17日、24日、25日（計3日間）

活動場所 荒尾市、長州町、玉名市、熊本市、宇土市

参加者 荒尾漁協、熊本北部漁協、岱明漁協、滑石漁協、大浜漁協、横島漁協、河内漁協、松尾漁協、小島漁協、沖新漁協、畠口漁協、海路口漁協、川口漁協、住吉漁協、網田漁協、組合員、地域住民、消防団、建設業者、土木業者、女性部など

ごみの量 自然物ごみ 2tトラック56台分
人工物ごみ 2tトラック26台分

コメント 今後もこの活動に取り組んでいきたい。



大分県 大分県漁業協同組合 臼杵支店

令和6年7月15日

活動場所 臼杵市海岸全域38km

参加者 400名（大分県漁業協同組合 臼杵支店）

ごみの量 自然物ごみ 5,280kg
人工物ごみ 2,890kg

コメント 参加者の高齢化が進んでいるので流木など大きなゴミに関しては回収が難しくなっている。漂着物が少なかったため、例年よりスムーズに回収作業が行えた。



あ と が き

令和6年能登半島豪雨により被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、少しでも早い復興を祈念しています。最近では天候の変化が激しく、災害はいつどこで起きてもおかしくなってきました。来年は昭和100年です。55年ぶりに大阪万博が開催されます。100年前の人はどんな100年後を描いていたの

でしょうか。前回の大阪万博が描いた未来はどのくらい実現したのでしょうか。100年後は、気候変動は穏やかで、海洋プラスチックごみは過去の事になっているような世界を願っています。これを読んでいる方で100年後の生存者はほぼ皆無と思いますが、皆様はどんな50年後、100年後を描いていますか。（福田）

